

鼓遊会 (広島工業大)

熱心に練習する鼓遊会のメンバー



部長の情報工
学科3年・柳沢
和希さん(21)
和太鼓にはさま
ざまな種類があ
り、音色も異な
ります。それぞれのたたき方
を身に付けることで演奏の幅
が広がっていく感覚が楽しい
です。大勢のお客さんの前での
演奏は、最初は緊張しますが、
乗り越えたときの達成感
は素晴らしいものです。

それぞれのたたき方を身に付けることで演奏の幅が広がっていく感覚が楽しいです。大勢のお客さんの前での演奏は、最初は緊張しますが、乗り越えたときの達成感は素晴らしいものです。



2019年6月の定期演奏会 (佐伯区民文化センター)

くーが完成しました。おけ太鼓、締太鼓、長胴太鼓、大太鼓の4種類全てを使い、幅の広い音色が特徴です。現在、多くのイベントで演奏しています。メンバーは、これからも地域とのつながりを大切にして活動を続けます。

地域つなぐ和太鼓の響き

広島工業大(広島市佐伯区)の和太鼓サークル「鼓遊会」は、和太鼓の響きや迫力を伝えようと、学内にとどまらず、

地域の祭りや病院などのイベントで演奏しています。20年余りの歴史を持ち、卒業生にはプロの和太鼓奏者もいます。活気にあふれたサークルです。

演奏は長い曲で8分間あります。重さ5kgの太鼓を肩に掛け、バチを使って迫力ある音を出すには、体力が必要です。しかし、メンバーは、リズムと気持ちがあわせり、見ている人に笑顔になつてもらえることにやりがいや楽しさを感じています。

サークル F.I.L.E

キャンリポ発

学内では、工大定期演奏会や工大祭に出演しています。さらに毎年、比治山大、広島国際大との合同演奏会にも出て、一緒に演奏しています。演奏を通して人とのつながりをつくりたい、太鼓の音色にひかれて集まったメンバーは現在7人。女子も2人います。

イベントで披露する曲は歴代のメンバーが作り、代々受け継いでいるオリジナル曲です。そのため、先輩から後輩へと、指導を通して技術も継承されます。

昨年、新曲「囃新(そつら)

